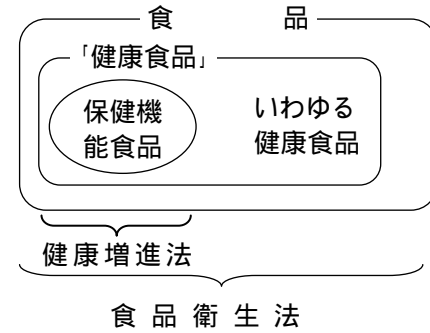


食品安全情報評価委員会報告（案）（骨子）～「健康食品」の安全性に係る情報の検討～

健康食品とは...

法令の定義なし。生鮮食品から加工食品まで様々な食品

検討での健康食品の定義：
「健康の保持増進に資する食品として販売・利用されるもの」



検討の背景・目的

「健康食品」の市場規模の拡大(全国で1.3兆円。5年後に3兆円)。6割程度の都民が利用
都内には事業者が集中

「健康食品」によるとと思われる健康被害が一部で発生。表示・広告にも問題多い

都民に対する危害の未然防止・拡大防止の点から検討実施

現 状

健康影響に関わる問題点

課題の整理

都の取組の方向性

健康食品の利用実態

- 利用目的：栄養補給が中心
一部、病気の治療・ダイエット
- 情報源：広告、マスメディア、クチコミ
特にテレビ、雑誌等の影響が大きい
- 購入経路：店頭購入、インターネット通販や個人輸入
- 使用素材：ビタミン・ミネラルの商品が多い
一部で、食経験の乏しい素材を使用
- 関係法令：食品衛生法、健康増進法、薬事法、JAS法等

健康影響の実態

「健康食品」による健康影響の経験
インターネット都政モニター調査（平成15年度第3回）
「健康食品」を使用して体調を崩したことがありましたか
・あった 5.4% ・なかった 94.6%

医療機関、薬局、薬店等における「健康食品」への対応等にかかる調査（平成16年度 福祉保健局）
「健康食品」に起因する可能性があると思われる健康被害症例（医薬品との相互作用も含む）のご経験がありますか？

・経験あり 都内の医師 19.4%
都内の薬剤師 13.9%

健康被害の類型

- ・医薬品成分の含有
- ・有害な成分・素材の含有（医薬品以外）
- ・アレルギーなど利用者の体質
- ・過剰摂取
- ・治療の中断による症状の悪化

「健康食品」に対する認識が不十分

- ・事業者の安全性に関する認識
- ・都民の知識や認識

情報の偏り

- ・都民が安全に利用するために必要な情報の不足
- ・「健康食品」の「有用性」に関する情報の氾濫

健康影響の実態把握不足

- ・医療現場で健康影響が察知しにくい
- ・「健康食品」と健康影響との関連性を判断するための情報不足
- ・行政による健康影響事例の把握不足

事業者

- 安全性に係る情報の収集と安全管理の徹底
- 消費者への十分な情報提供
- 消費者への適切な対応

都 民

- 食生活の基本に対する理解
- 「健康食品」に対する正しい理解
- 適切な製品選択と安全な利用

医療関係者

- 「健康食品」と関連が疑われる症例の探知
- 情報に基づく都民へのアドバイス

教育関係者

- 食に対する適切な判断力の涵養

東京都

- 健康被害事例の迅速な収集体制構築
- 協力関係構築

事業者への指導・支援

- 指導の充実
- 自主管理の促進
- 講習会の開催

都民への普及啓発

- 委員会でもとめた「安全な利用についての基本的考え方」に基づく啓発
- 相談窓口機能の充実強化

医療関係者との連携

- 健康被害情報の把握と情報提供

教育関係者との連携

- 食の大切さに対する理解の促進

関係者との総合的な連携

- 健康被害情報の把握
- 安全性情報の共有

安全性に配慮した製品の供給と適切な情報提供
健康食品に対する正しい理解の促進
健康被害の未然防止・拡大防止